

グリーンツーリズムによる地域活性化の可能性

——茨城県を事例として——

日本の地方農村地域は、人口減少や高齢化の進行、若者の都市部への流出、さらには農業の担い手不足といった課題に直面している。本論文で研究対象としている茨城県も農業就業者の減少や高齢化の進行が課題となっているが、それに対する政策の一環として、県内の農業資源を活用したグリーンツーリズムの推進が行われている。そこで、グリーンツーリズムは茨城県において、地域の活性化と農業の持続性に寄与する有効的な観光政策となりうるのか、という問いを立てた。これに対して、茨城県におけるグリーンツーリズムの展開は、地域の文化・農業資源の観光的活用を通じて地域コミュニティの再生に貢献するとともに、農業経営の安定につながる可能性があるという仮説を立てた。

仮説を証明するにあたって、県全体のグリーンツーリズムの推進を担っている茨城県庁と、県北 6 市町を担っている常陸太田市観光物産協会にヒアリング調査を行った。その結果、グリーンツーリズムの推進は経済的波及効果に加え、都市住民との交流が住民に地域の価値を再認識させる〈交流の鏡効果〉をもたらし、地域コミュニティの再生に寄与していることが明らかになった。また、農家民宿などにおける宿泊・体験料による所得の多角化が経営基盤を強化し、都市住民との交流が〈関係人口〉の創出や将来の担い手確保に繋がる可能性が示された。精神面においても、参加者からの評価が農業者の意欲を支える支柱となっており、グリーンツーリズムは経済・心理の両面から経営安定に寄与する重要な要素であると結論付けた。

以上の点から、本論文では、茨城県におけるグリーンツーリズムの展開において地域コミュニティの再生と農業経営の安定性に貢献するという仮説が証明された。